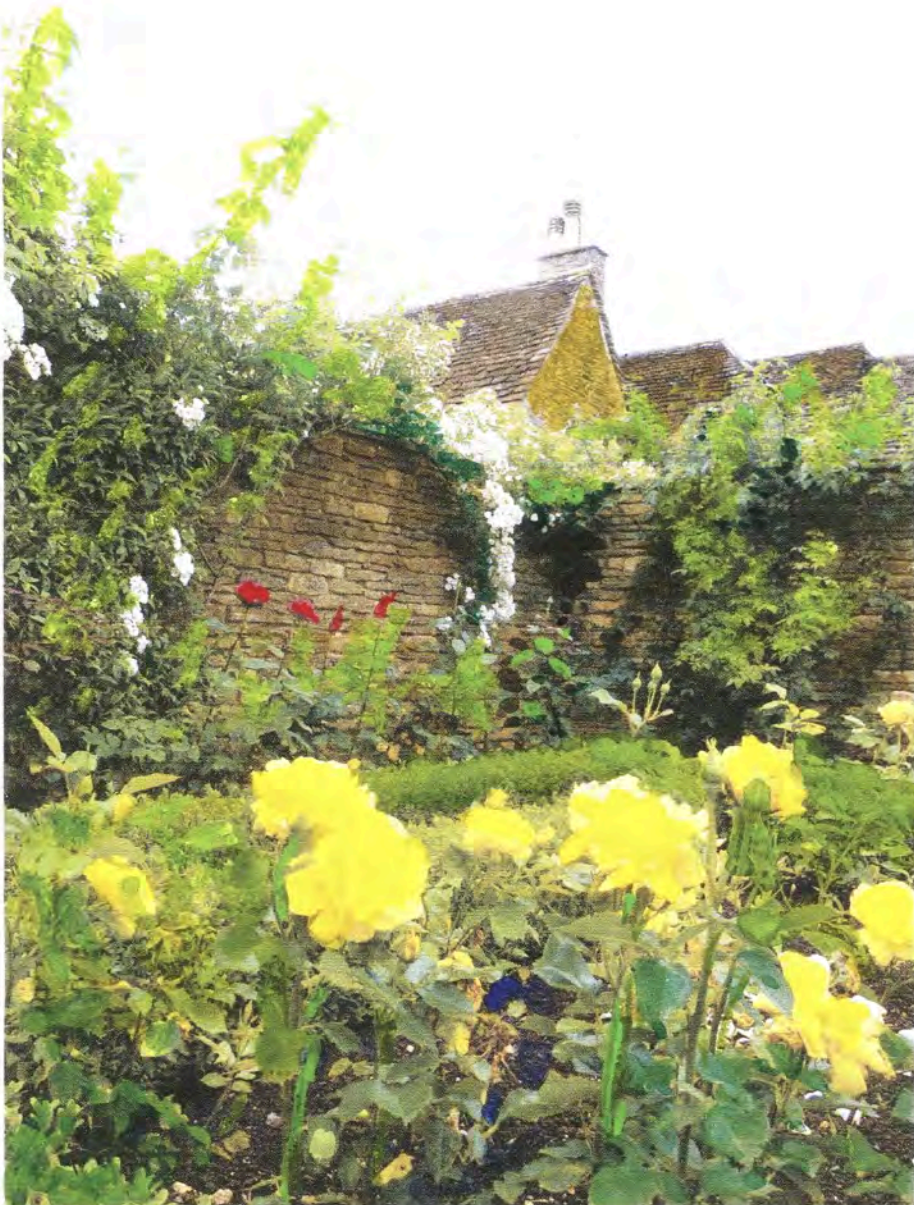


いぬがわおカ)

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



Ⅱ

2017

No. 173

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅－XLV

下馬部会 齋藤賢一

世界遺産のパッタダカルの建造物群は南インドのカルナータカ州にあります。6世紀から8世紀にかけて、チャールキヤ朝の第二の都市（戴冠の都）として繁栄しました。パッタダカルの特徴は南部の建築様式と北部の建築様式が混在し、かつイスラムからの破壊を逃れたことです。ここに7世紀から8世紀にかけて、大小8つのヒンドゥー教寺院と多くの小祠堂が建設されました（写－1）。また少し離れた場所に、1



写－1 全景

世紀後のラーシュトラクータ朝に建てられたジャイナ教寺院があります。8つの寺院は全てシヴァ神に捧げられた寺院で3つの大寺院（ヴィールパークシャ、マリカールジュナ、サンガメーシュワラ）は明らかに南方型の様式で建てられていて、ほかの5つの寺院（ガラガナータ、カーシーヴィシュワナータ、ジャンプリング、カダシッデーシュワラ、それにパーパナータ）には、のちの北方型のシカラ（尖塔）に似た塔が立ち上がっています。なかにはさまざまな地域のスタイルが混在している寺院もあり、このことは、まだ北方型と南方型の様式が確立していない時期に、チャールキヤ朝の王が帝国の各地から工匠を集めていたと思われる。南方型の建築様式は本殿の屋根がピラミッド型であるのに対し北方型の建築様式は先端を空に向けた砲弾型で高くそびえています。それでは見学しましょう（写－2）。ここは遺跡公園になっていてとても良



写－2 配置図



写－3 カダシデーシュワラ寺院

く整備されています。

入口で入場料を払い一番近くのカダシデーシュワラ寺院（写－3）から見学します。最も古い寺院で7世紀中頃の建立です。北方型寺院で正面には門神（ドゥパラパーラ）が彫刻されています。壁龕南側にはラクリシャ、西側にはハリハラ、北側にはアルダナリーシュヴァラ（身体の右半分がシヴァ、左半分が妃のパールヴァティ）が彫刻されています。このアルダナリーシュヴァラは素晴らしい出来です（写－4）。

次はジャンプリング寺院（写－5）です。北方型寺院で695～690年に建てられました。壁龕には南側シヴァ、西側にはスーリヤ、北側にはヴィシュヌが彫刻されています、特に特徴のない寺院です。



写-4 カダシデーシュワラ寺院
「アルダナリーシュヴァラ」



写-5 ジャン布林ガ寺院



写-6 ガラガナータ寺院

ガラガナータ寺院（写-6）は北方型寺院の典型で685～690年に建立されました。前室が崩壊しているので寺院の構造がよく解ります。前室がないのですぐに祠堂のドアフレームです。上部に踊るシヴァ、下部に河の女神ガンガーとヤムナーが彫刻されています。また祠堂を回る繞道もよく解ります。

最後の北方型寺院はカーシーヴィシュワナータ寺院（写-7）です。760年の建立でだいぶ発展してきました。彫刻が素晴らしく特に内部の柱に彫ったシヴァやヴィシュヌの神話は必見です（写-8）。天井にもシヴァの彫刻があります。

デカン地方に広大な版図をもち、バーダーミ



写-7 カーシーヴィシュワナータ寺院



写-8 カーシーヴィシュワナータ寺院「柱の彫刻シヴァ」

を首都とする強大なチャールキヤ朝が成立したのは6世紀で、南のパッラヴァ朝と宿命の対決をくりかえし、何度も大戦争を行いました。チャールキヤ朝とパッラヴァ朝との覇権争いは長くつづき、一時は首都のバーダーミを奪われたチャールキヤ朝はデカン高原へ後退せざるをえなくなり、バーダーミから30km離れたパッタダカルの町を新たな根拠地としました。この地は以前から王家の戴冠式を行っていた場所で、パッタダカルの意味は「ルビーの王冠の都」です。パッタダカルの中でも群を抜いて大きなヴィルーパークシャ寺院は第8代ヴィクラーマディチ2世（在位733～744頃）がパッラヴァ朝との戦いに圧勝したのを記念して

ローカ・マハーデーヴィ王妃が建立したものです。ヴィクラマーディチャ2世は、パッラヴァ朝の建築文化の高さに感銘を受け、グンダという建築家を招聘するとともに、南部の石工や工匠たちを多く駆り集めました。したがってパッタダカルの寺院建築は、パッラヴァ朝の首都カーンチープラムにあったカイラーサナータ寺院やヴァイクンタペルマール寺院、マハーバリプラムの諸寺院などの影響を強く受けています。



写-9 ヴィルパークシャ寺院

ヴィルパークシャ寺院（写-9）はとても大きく、寺院の手前には聖牛ナンディを祀った開放的な堂が向き合っています。本殿の外壁は緻密な彫刻パネルと美しい格子窓で飾られています（写-10）。題材は神話やラーマヤナ、マハーバーラタで内部の柱にも彫刻されています。



写-10 ヴィルパークシャ寺院
「リングから現れるシヴァ」

すぐ後にあるマリカルジュナ寺院（写-11）は同じく王の戦勝記念に第2夫人が建立したものです。ヴィルパークシャ寺院を小型にしたもので似てい



写-11 マリカルジュナ寺院



写-12 マリカルジュナ寺院
「外壁の窓と彫刻」

ます。外壁の格子窓はとても精巧です（写-12）。内部の柱には、マハーバーラタやラーマヤナの彫刻パネルがあります。

サンガメッシュワラ寺院（写-13）は第7代王ヴィジャヤディティヤによって建てられた南方型寺院で南方型では一番古い寺院です。本殿の屋根はあまり高くなく、比較的簡素な姿をしています。

寺院の集合地区からやや南に離れた所に、パーパナータ寺院（写-14）があります。パーパナータ寺院は初め北方型寺院として建てられましたが、後に南方型寺院になりました。以前お話ししたアランプールの寺院に良く似ています。この寺院はいったん出来上がったのですがもっと大きくするために、前にあったナンディ堂を取り込んだため拝殿の中にナンディ像がそのまま残っています。

外壁は沢山の彫刻と格子窓で飾られ、特にラーマヤナの彫刻が目を引きます（写-15）。内部の柱と天



写-13 サンガメーシュワラ寺院



写-14 パーパナータ寺院



写-15 パーパナータ寺院「ラーマーヤナの彫刻」

井の彫刻も見所があります。

パッタダカルの寺院群は遺跡に関してはとても良く整備されていますが、周辺のインフラが20年経ってもあまり進んでいません。まともなホテルもなく遺跡の周りにはちゃんとしたレストランもありません。私はこの雰囲気大好きですが、これでは外国の観光客を呼べません。それはムンバイから南東460kmに位置するアクセスに関係しているのかもしれませんが。飛行場が近くにないので列車を乗り継ぐか、バスか車でしか行くことが出来ないので。道が良くない460kmはかなり辛いです。しかしこの困難を乗り越えてこの遺跡の前に立てばインドに対する畏敬の念と愛着の念がひしひしと沸き上がって来るでしょう。